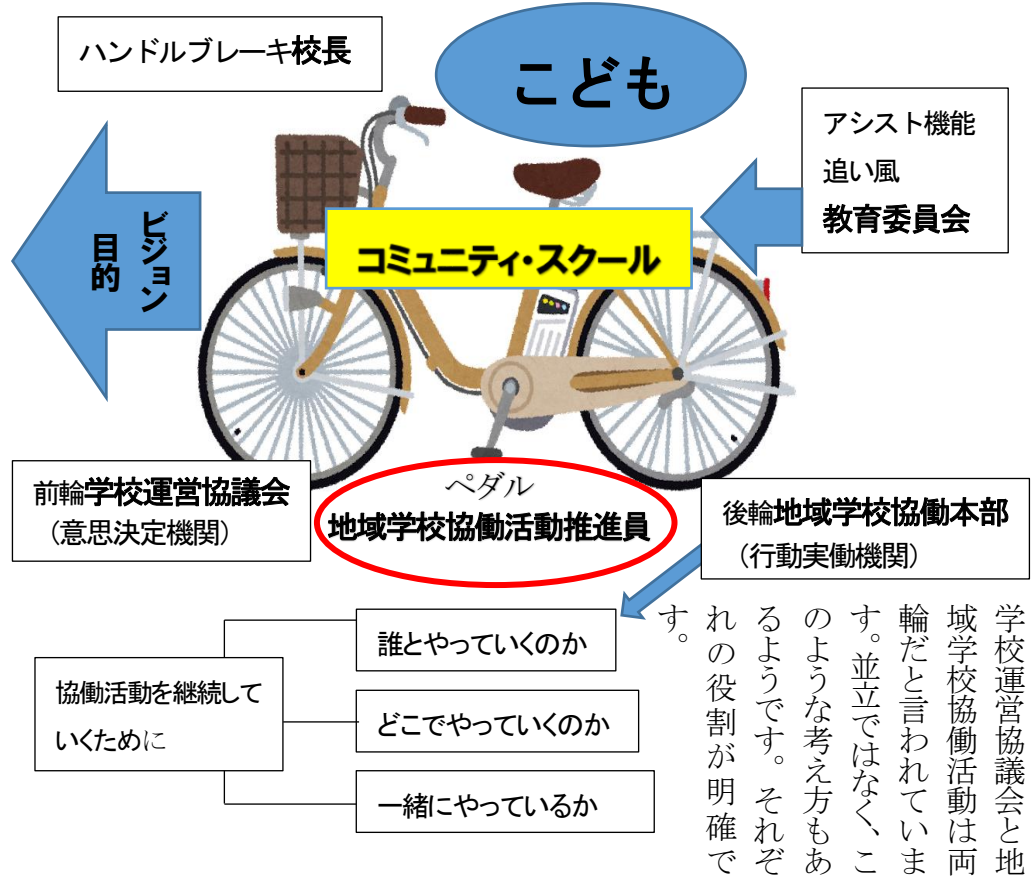


令和三年度「地域と共にある学校づくり」推進フォーラム in 愛知」から WEB研修に参加して

8/26

学校運営協議会と地域学校協働本部は両輪でという考え

<大阪府河内長野市 CSマイスター 大谷裕美子氏からの参考意見より>



特別支援学校や義務教育学校のCS関連の実践事例を紹介しします。

チーム学校づくり (和歌山県立 紀伊コスモス支援学校の実践)

○プロジェクトチームを通して **学校運営協議会** を動かす仕組み

- ・ 研究推進部 大学教授 元校長
- ・ キヤリア教育部 企業から 校長
- ・ 学校安全部 (医師・警察)
- ・ 地域連携部 (他の小学校校長・自治区長)

八人の委員を振り分けている。協議会メンバーは適材適所を考え人選をしておいた。さらに学校職員の既存組織と学校運営協議会四部門との連携を持たせる活動もあり、学校運営協議会はお客様で終わらないように、チームとして実働に移せる意識で組織作りをしている。

地域に根差した活動 (大阪府守口市さつき学園義務教育学校の実践)

- コミュニティカレンダーを六か月分作成する (年二回の発行)
- 実働部隊の設置 四部門 (学習部 生活部 文化スポーツ部 広報部)
- CSの親しみやすさを広げる活動 (ボランティアを増やすために)
- ・ ボランティア名称 ↓ さつきフレンド という親しみやすい名称
- ・ 声掛けや口コミの重視、登録カードのわかりやすさ
- ・ 保護者への勧誘は一斉メールを使って、またはHPやSNS
- ・ 新入学児童保護者へのお願いが重要であり、効果がある

「学校は、教育サービス」で、「保護者は、教育サービスの受給者」となってしまう日本の学校に多様な文化や価値観を持つ地域住民が、仲間として、それぞれの良さや強みを活かして、協働し、「よりよい学校」を創っていくことが「地域とともにある学校」です。そうして、子どもたちのために学校をよくしたい、元気な地域をつくりたい、という「志」が集まる学校へ。「誰かが助けてくれる」のではなく、自分たちが、自分たちの学校・地域を、自分たちの力で再生させていく、多くの人々が「当事者」として行動する。それが、コミュニティ・スクールです。地域で深い学びをした子どもは、地域に戻ってくるそうです。そんな未来のまちづくりにつなげたいと思います。

講演会から引用NPO法人「まちと学校みらい」代表理事 竹原 和泉 氏

湯沢市のCSがスタートして早いと「ろだ」と三年目となり、組織として形になりました。今後の当市のキーワードは、「CSと地域学校協働活動との一体化」です。学校運営協議会の基本である三つの基本的機能を踏まえたうえで「地域とともにある学校」とはどういう姿なのか「社会に開かれた学校」とはどう違うのかを確かめていきたいものです。

《CS発足当初から会長を務めている会長さん方のご意見を紹介します》

地域とともにある学校づくりをめざして

湯沢東小学校 学校運営協議会会長 柿崎 清

学校運営協議会会長を拝命してから三年、この間十名の委員の皆様と共に子どもたちの健やかな成長を願って「今、何が大切か。何をすべきか。」という観点から熟議を重ね実現可能なことから実践してきました。

一年目は、CSについての理解と協力を仰ぐために、学区内の自治組織協議会の役員の方々との協議会の開催や自治組織の敬老会や前森公園祭りでの湯沢東小学校プラスチック部と合唱部の演奏、特別支援学級児童の作品即売会等を実施し、地域の方々の交流を深めることができました。二年目は、コロナ禍のため、年四回の協議会の開催のみで、予定していた湯沢東小学校十周年

地域への感謝を込めて植樹を行った「10周年記念行事」9/10



記念事業を実行できず、非常に残念でした。三年目の今年度は、開校プロジェクト十周年プロジェクト事業の開催、湯沢東小学校の情報を地域に発信するための方策の展開、学区内地域自治組織との情報交換会（授業参観も）三つの事業を通して「地域とともにある学校づくり」を展開・深化させていきたいと考えています。

参考までに

確かな歩みの学校・地域・子どもたち

稲庭小学校 学校運営協議会会長 佐藤 朋夫

「やさしく、かしこく、たくましく」の学校教育目標実現のため、学校・家庭・地域が強いつながりをもって歩んでいます。

特に今年度は閉校をひかえ、稲庭小学校の最後の一年を地域全体で見守り、取り組みを周知するため、学校運営協議会報を発行しています。

事務局である教頭先生が中心となり、子どもたちの活動の様子や協議会の話題や課題解決のための方策などを紹介してもらっています。昨年度話題になった子どもたちの「強さ・たくましさ・コミュニケーションの力」の育成には、今年度学校を上げて取り組んでいると同時に家庭・地域も同一步調で進んでいます。少数ゆえに考えられる「集団に埋没しなたくましさ」を育ててやりたいという願いがあるからです。

そして、現代は、病気、事件・事故や自然災害等予測不可能なことが多く発生する時代です。その中で生きる子どもの「命」を守ってあげることが大前提になるのですが、コロナ後の期待と不安の中にも事実です。

11月17日に湯沢市の教職員対象の公開研究会が開催されます。

午前中に山田小・中学校の授業公開、午後はCS研修会を行います。が、研修会の講師を、前面にも紹介したCSマイスター（文科省から委嘱されているCSの専門家）である竹原和泉氏にお願いしています。竹原氏が携わっている地域学校協働本部（通称やまろう）のHP「やまろうネット」に載っている「やまっぶ9」を是非ご覧ください。住民サイトで作成した小中九年間の教育課程の説明資料は、学校だけでは作成できない視点でつくられたものです。